

これがイネもみ枯細菌病

調整粉では見た目の保菌の判断は困難

苗腐敗症



- ・坪状発生することが多い
- ・坪中心部の重症苗は腐敗、不出芽
- ・軽症苗は、葉鞘の褐変、葉、茎等の白化
- ・高温多湿で発生しやすい

見かけ健全苗



苗に感染するが発病の確認は困難

稲株の腐敗症状

(2005年に鳥取県で発生を確認)



- ・重症株：移植後2週間程度で稲株が腐敗消失
- ・軽症株：草丈、分けつの抑制
- ・条に沿って連続発生
- ・発病は特定の育苗箱の苗に由来
- ・移植後の地温が高い平坦地等で発生しやすい

見かけ健全苗



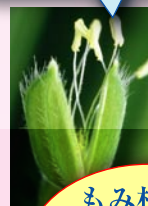
病徴はなく、葉鞘、枯死組織等で保菌

減収・品質低下

もみ枯症
(重症穂を中心に二次感染)

籾基部から淡黄白色に変色し、上部に拡大。その後、黄白色、灰白色または蒼白色、淡紅色または淡褐色の順で変色。また、一部の籾の基部は黒褐色となる。

開花期の籾に感染病原細菌は葯でも増殖



もみ枯症を起こさない病原細菌も存在

病徴なく、葉鞘内の穂に感染



病原細菌がいても条件が不適だと発病しない

は種

育苗期

移植

出穂期

出穂後

イネもみ枯細菌病の特徴

苗腐敗症（腐敗、白化、わん曲等）



腐敗苗は芯が簡単に抜ける

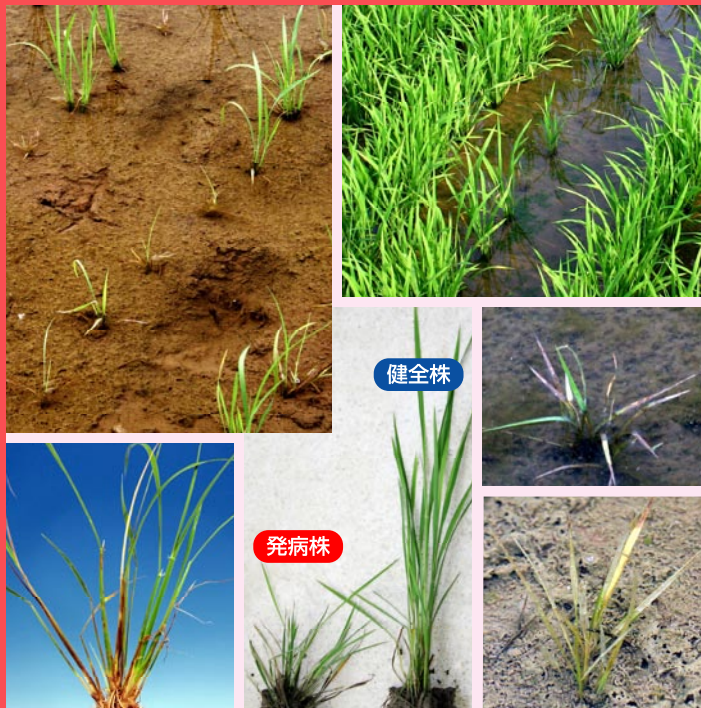


見かけ健全だが…



見かけ健全苗の地際部の褐変、白化

稲株腐敗症状（腐敗、生育抑制）



- ・重症株は腐敗、軽症株は著しい草丈・分けつ抑制
- ・発病株は特定の苗箱に由来し、条に沿って発生
(除草剤の薬害では、このような発生はしない)

類似病害



苗立枯細菌病

苗立枯病（ピシウム属菌）

もみ枯症（淡い褐変）



- ・重症穂は不稔となり直立
- ・重症穂を中心に坪状発生することが多い
- ・一部の籾の基部が黒褐色
(診断のポイント)
- ・枝梗は緑色
(診断のポイント)

褐色条斑米
(診断のポイント)



いもち病（穂いもち、籾いもち）

内穎褐変病